

多段接ぎ木法による ナス青枯病及び半身萎凋病の防除

ナス産地では長年の連作等により青枯病、半身萎凋病の発生が収量低下の主要因となっています。防除法の一つとして、抵抗性台木を用いた接ぎ木栽培が広く普及していますが、両病害に対して強度の複合抵抗性を持つ品種がなく、より効果の高い防除技術が求められています。そこで、新潟県農業総合研究所では、接ぎ木苗の抵抗性を強化した「多段接ぎ木法」による両病害に対する防除技術を開発しましたので、その概要を紹介します。

☆ 技術の概要

1. 多段接ぎ木法は、抵抗性の異なる台木2品種を台木及び中間台木としてその上に穂木を接ぐ接ぎ木法であり、中間台木の長さは4～5cmとします(図1)。
2. 多段接ぎ木ナスでは、台木に半身萎凋病に強度抵抗性の「トナシム」を、中間台木に青枯病に強度抵抗性の「台太郎」を用いると両病害に対して高い発病抑制効果を示します。
3. 多段接ぎ木法は、特に青枯病に対する効果が高く、半身萎凋病に対しては台木「トナシム」の慣行接ぎ木法とほぼ同等です(図2)。また、ハウス栽培では、糖蜜を用いた土壌還元消毒法を併用することで防除効果が安定します(図2)。
4. 接ぎ木方法の違いによる、収量への影響は認められません。



図1 多段接ぎ木苗の草姿
(矢印：接ぎ木位置)

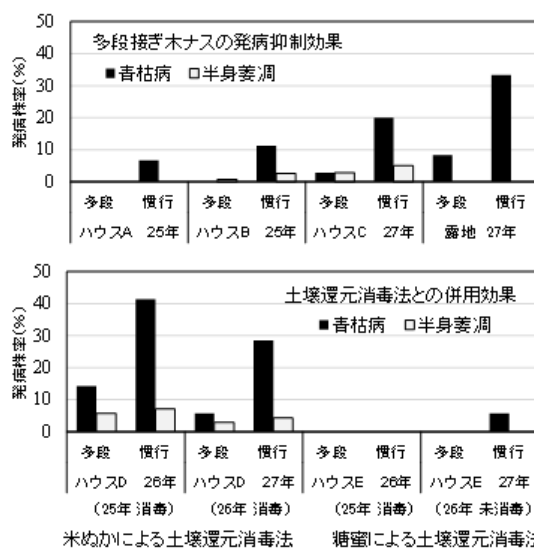


図2 多段接ぎ木ナスの青枯病及び半身萎凋病に対する発病抑制効果

ハウスA～E 穂木：新潟黒十全、露地穂木：あのみのみ
多段：多段接ぎ木（中間台木：台太郎、台木：トナシム）
慣行：慣行接ぎ木（トナシム台木）

☆ 活用面での留意点

1. 台木には半身萎凋病抵抗性の「トレロ」、「トルバムビガー」も利用可能です。
2. 糖蜜を用いた土壌還元消毒法については新潟県成果情報（糖蜜を用いた土壌還元消毒法によるトマト青枯病およびネコブセンチュウの防除）を参照してください。
3. 詳しいことは、新潟県農業総合研究所基盤研究部(TEL：0258-35-0826)または同研究所園芸研究センター(TEL：0254-27-5555)にお問い合わせください。

(日本政策金融公庫農林水産事業本部 テクニカルアドバイザー 吉岡 宏)